

玉川大学 教師教育リサーチセンター・教職大学院共催

教師教育フォーラム

教員不足解消のための
教員確保と大学の教員養成改革

オンライン
配信

事前申し込み制

参加費無料

2024年 **10月19日** 土
9:30～15:30

午前の部は「教員不足解消のための教員確保と大学の教員養成改革」をテーマに掲げ、講演者に様々なお立場からご報告いただきます。

午後の部は教職大学院分科会を行います。それぞれの専門分野について情報共有、意見交換をしていただきます。

社会の変化に伴い、学校教育も大きく変化している中で、教員不足解消に向けた様々な取り組みについて、みなさまと共に考える機会にしたいと考えております。

申込締切

10月15日(火)
23時59分

お申し込みは
こちら▶



<https://forms.gle/DpH6UuTgehB1rECc8>

後援

町田市教育委員会、稲城市教育委員会、神奈川県教育委員会、
横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、
時事通信出版局、日本語検定委員会、玉川学園 K-12

プログラム

9:30～12:15 教師教育フォーラム

- 開会挨拶 小原 一仁 学長
- 講演
教員確保に関する文部科学省の施策と大学教員養成への期待
後藤 教至 氏 (文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長)
- ショートレクチャー 小原 芳明 理事長 (全国私立大学教職課程協会会長)
- シンポジウム
東京都の教員確保及び育成に向けた取組
金木 圭一 氏 (東京都教育庁 人事部主任管理主事)
神奈川県の取り組み
羽鹿 直樹 氏 (神奈川県教育委員会教育局 副局長)
横浜市の取り組み
石川 隆一 氏 (横浜市教育委員会 教育次長)
教員不足をふまえた大学の教員養成改革の課題
森山 賢一 (玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー)

【コーディネーター】

笠原 陽子 (玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授)

13:00～15:30 教職大学院 分科会

- 国語科教育 ●英語科教育 ●学びの保障 詳細は裏面をご覧ください。

問い合わせ先

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL: 042-739-7097 FAX: 042-739-8857

e-mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp HP: www.tamagawa.jp

分科会テーマ

国語科教育

対面+オンライン形式

学びが活性化する言語活動&話し合い『教育科学国語教育』グループ連載を受けて

現在進行中の「教育科学国語教育」(明治図書)におけるグループでの連載において、どのような発信がなされているかを概観するとともに、執筆者による解説を聞いた上で、参加者と討議し、国語科の学習における「言語活動」や「話し合い」の位置づけについて検討する。

ゲストスピーカー

橋本 祐樹 氏 (対面) (修了生・世田谷区立等々力小学校主任教諭)
大村 幸子 氏 (対面) (修了生・お茶の水女子大学附属小学校教諭)
渡辺 優菊 氏 (対面) (修了生・府中市立白糸台小学校教諭)
井上 功太郎 氏 (オンライン) (美作大学専任講師) 連載編集担当
佐藤 多佳子 氏 (オンライン) (上越教育大学教職大学院教授) 連載編集担当

担当教員 松本 修 (玉川大学教職大学院教授)

英語科教育

対面+オンライン形式

生徒が主体的に取り組む英語の授業について考える～5ラウンドシステムの英語授業の実践から～

英語教育では、小学校3年生から外国語活動が始まり、5年生からは教科としての外国語が始まっている。また中学校においては、どの教科の時数よりも3年間の総時数が一番多くなっている。しかし、令和5年度に行われた全国学力学習状況調査の英語の正答率は思わしくなく、また興味関心を問う質問に対する回答の肯定的回答の割合も下がっている。改めて英語の授業についてどのような改善が必要なのか、ということを生徒の活動が授業の大半を占める5ラウンドシステムの授業実践を基に、考えていきたい。

ゲストスピーカー

土屋 雅徳 氏 (川崎市立有馬中学校)
山本 丁友 氏 (横浜市立本牧中学校)

担当教員 西村 秀之 (玉川大学教職大学院准教授)

学びの保障

オンライン形式

誰一人取り残さない「教育」とは -「生きる力」に繋がる学びの保障について考える-

不登校児童生徒数が小・中・高を合わせて約30万人に上り過去最高となっていることを受け文部科学省が取りまとめた「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」の中では「児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」とされているが、学校教育以外の場で保障される「学び」の具体については示されていない。

限られた資源や時間の中で、一人一人の子どもたちがその後の人生を豊かに暮らしていくために必要な学びとは何か。実際に不登校を経験した若者の生の声を軸にして、NPOや行政・学校等周囲の関係者とともに「生きる力」に繋がる学びの保障について考える。

ゲストスピーカー

大神田 佑雅 氏 (西門ホットスペース Colore メンバー)
霜田 直道 氏 (Colore メンバー兼勉強会ボランティア)
河村 香織 氏 (Colore 保護者ボランティア)
雨宮 健一郎 氏 (NPO 法人文化学習協同ネットワーク相模原エリア事業部統括)
古屋 礼史 氏 (相模原市中学校長会会長 相模原市立大野北中学校校長)
折原 奈帆 氏 (相模原市青少年相談センター所長)
丸岡 智美 氏 (相模原市青少年相談センター指導主事)

担当教員 今井 勉 (玉川大学教職大学院教授)

講演者プロフィール

後藤 教至

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長。
平成12年4月文部省入省、初等中等教育局、高等教育局、スポーツ庁等で勤務。その間、宮城県教育委員会、内閣官房教育再生実行会議担当室へ出向。その後、令和元年9月高等教育局国立大学法人支援課企画官、令和3年8月初等中等教育局企画官、令和4年8月文部科学広報官等を経て、令和5年2月より現職。

羽鹿 直樹

神奈川県教育委員会教育局副局長。
平成元年4月神奈川県庁入庁。県土整備局、県民局、総務局、環境農政局等で勤務。その後、令和3年4月教育局参事兼教職員人事課長を経て、令和5年6月より現職。

森山 賢一

玉川大学教育学研究科教授、教師教育リサーチセンターリサーチフェロー。
専門は教育内容・方法学、教師教育学。特に教育の理論と実践との結合を目指すことによって、教育実践に関する研究水準の向上に取り組む。町田市教育委員、第9期～第12期中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会委員、教育実践学会会長、日本感性教育学会会長等を務める。

金木 圭一

東京都教育庁人事部主任管理主事。
東京都公立小学校教諭・主幹として3校で勤務。江戸川区教育委員会指導室指導主事、練馬区立小学校副校長、練馬区教育委員会教育振興部教育指導課統括指導主事・副主事、町田市教育委員会指導室長兼指導課長を経て、令和2年度より東京都教育庁人事部職員課主任管理主事、令和4年度より現職。

石川 隆一

横浜市教育委員会教育次長。よこはま教師塾「アイ・カレッジ」塾長。
横浜市立小学校教諭、文部科学省研修派遣、横浜市教育委員会事務局教育政策推進室指導主事、指導主事室主任指導主事、横浜市立小学校長、横浜市教育委員会事務局小中学校企画課長、学校教育企画部長(横浜市教育センター所長兼務)等を経て、令和6年度より現職。

笠原 陽子

玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。
独立行政法人教職員支援機構 玉川大学センター 担当。
玉川大学大学院教育学研究科教職大学院教授、神奈川県内の小中学校教諭、中学校長を務め、神奈川県教育委員会子ども教育支援課長、支援部長、教育参事監、教育監、顧問を歴任。現在、神奈川県教育委員会教育委員を務める。